

各関係機関長 殿
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病害虫発生予察情報について

平成28年度農作物病害虫発生予報第9号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病害虫発生予報第9号

平成28年10月3日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が32.8%, 株当たり寄生虫数が1.46)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特に西部地域の10月中旬以降に収穫を迎える作型について, 発生が認められた場合は, 液剤等により防除を行う。

II. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の温州ミカンの巡回調査では, 発生圃場率が87.5%, 寄生葉率が8.4%であり, 平年(53.3%, 3.5%)に比べてやや高い。

(2) 9月29日発表の1か月予報では, 天気は数日の周期で変わるが, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは, 気温がかなり高く, 日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 十分な量の薬液を散布する。
(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が66.7%で、平年(68.3%)並の発生であるが、発病葉率は3.3%で、平年(10.2%)に比べて低い。
- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生の多い園では薬剤散布を行ない、早期落葉を防止する。

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病果率が0.3%で、平年(16.0%、0.4%)並の発生である。
- (2) 7月6半旬に行った新梢における発病調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.0%、新梢発病率が0.02%)。
- (3) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

果樹共通

カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 9月におけるツヤアオカメムシの予察灯への誘殺数は、勝浦町では平年より多めに推移し、上板町では、第2半旬まで平年より多く誘殺されたが、第3半旬以降は平年より少なめに推移している。また、チャバネアオカメムシの誘殺数は、勝浦町では平年より多めに推移し、上板町では第2半旬まで平年よりやや多めに誘殺されたが、第3半旬以降は平年並で推移している。

[予察灯へのツヤアオカメムシの誘殺虫数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
9.1	308	7	52	101	39	22	2	23	11	8
9.2	230	6	7	144	45	23	0	3	9	6
9.3	133	8	16	476	86	8	0	18	22	11
9.4	137	12	12	176	74	1	0	26	2	13
9.5	277	22	62	346	100	3	0	33	33	20
9.6		11	33	305	79		0	17	14	25

[予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺虫数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
9.1	180	21	167	128	79	48	6	40	43	16
9.2	518	15	48	265	75	36	1	5	29	11
9.3	197	24	20	536	52	7	0	9	23	10
9.4	183	20	7	437	101	5	4	3	3	9
9.5	133	39	33	916	43	10	0	8	8	6
9.6		14	17	312	20		0	2	5	2

- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

III. 野菜

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が29.4%で、平年(42.4%)に比べてやや低いが、寄生株率は6.0%で、平年(6.3%)並の発生である。
- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が15.4%、10株当たり寄生幼虫及び蛹数が0.1頭)。
- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

モンシロチョウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が12.7%、10株当たり寄生幼虫数が0.1頭)。
- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生抑制的な気象条件である。しかし、期間の中～後半の気温は、平年並になり、平年と同様に晴れの日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除効果が見られなくなるので、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (2) 肥切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ (9月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、50株当たり寄生虫数が10.1頭で、平年(17.1%、1.1頭)に比べて高い。
- (2) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、第3半旬にピークを迎え、4～5半旬にかけては減少傾向で推移しているが、何れも平年より多く推移している。
- (3) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、発生初期に徹底防除する。
- (2) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が77.8%で、平年(10.7%)に比べて高く、葉の被害度も1.4で、平年(0.1)に比べてやや高い。
- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、葉の被害度が3.3であり、平年(100%, 30.1)に比べて低い。
- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ (9月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワースの巡回調査では、発生圃場率が47.1%、寄生株率が7.9%であり、ほぼ平年(33.8%, 5.3%)並の発生である。
- (2) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、第3半句以降、増加傾向にあり、平年よりやや多く推移している。
- (3) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

シロイチモジヨトウ (9月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワースの巡回調査では、発生圃場率が41.2%で、平年(13.1%)に比べて高く、寄生株率も2.6%で、平年(1.1%)に比べてやや高い。
- (2) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、第3半句にピークを迎え、4~5半句にかけては減少傾向で推移しているが、何れも平年より多く推移している。
- (3) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

オオタバコガ (9月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、第2半句以降増加し、平年よりやや多く誘殺され、第4半句にピークを迎えた。
- (2) 9月29日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。特に期間のはじめは、気温がかなり高く、日照時間の少ない状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除

を行う。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
9.1	507	386	205	535	379	266	29	15	253	80
9.2	302	486	151	206	373	163	45	20	80	116
9.3	262	310	122	417	368	445	46	17	153	114
9.4	440	222	237	614	356	330	55	25	90	82
9.5	531	223	221	421	414	235	27	18	46	82
9.6		315	281	602	464		17	10	68	82

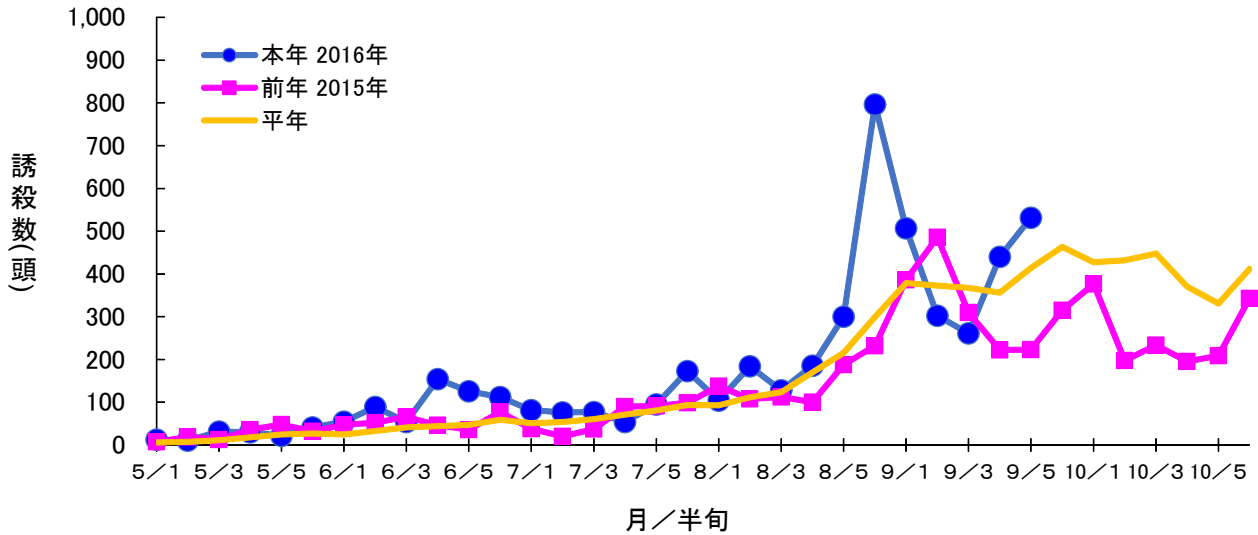


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

調査圃場：徳島市(川内, 不動), 阿波市(柿原, 香美), 吉野川市(鴨島町), 石井町

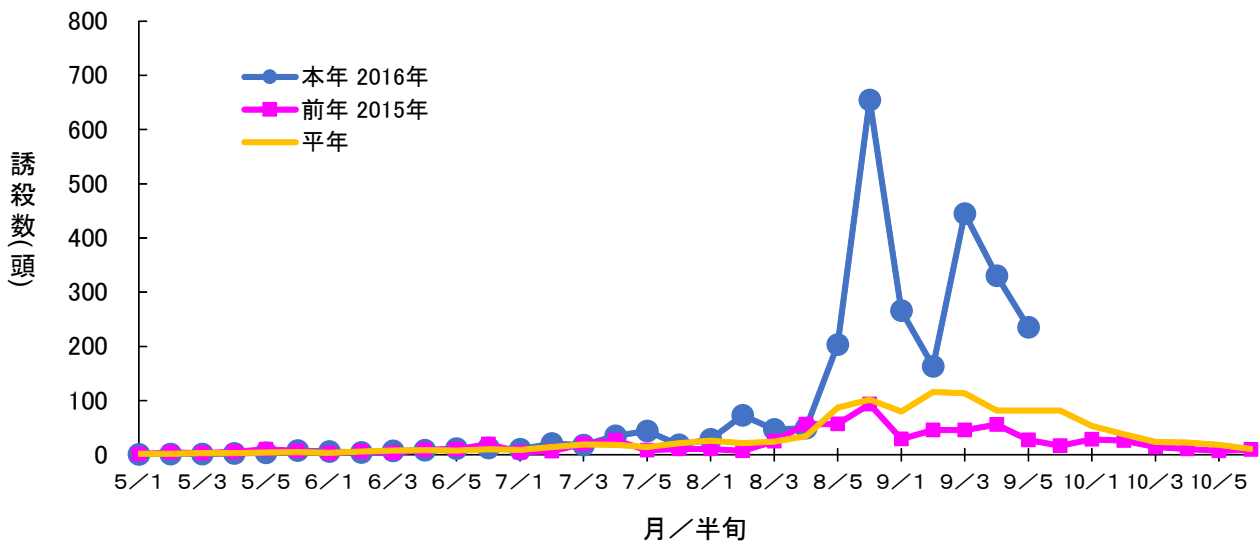


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

調査圃場：徳島市(川内, 不動), 阿波市(柿原, 香美), 吉野川市(鴨島町), 石井町

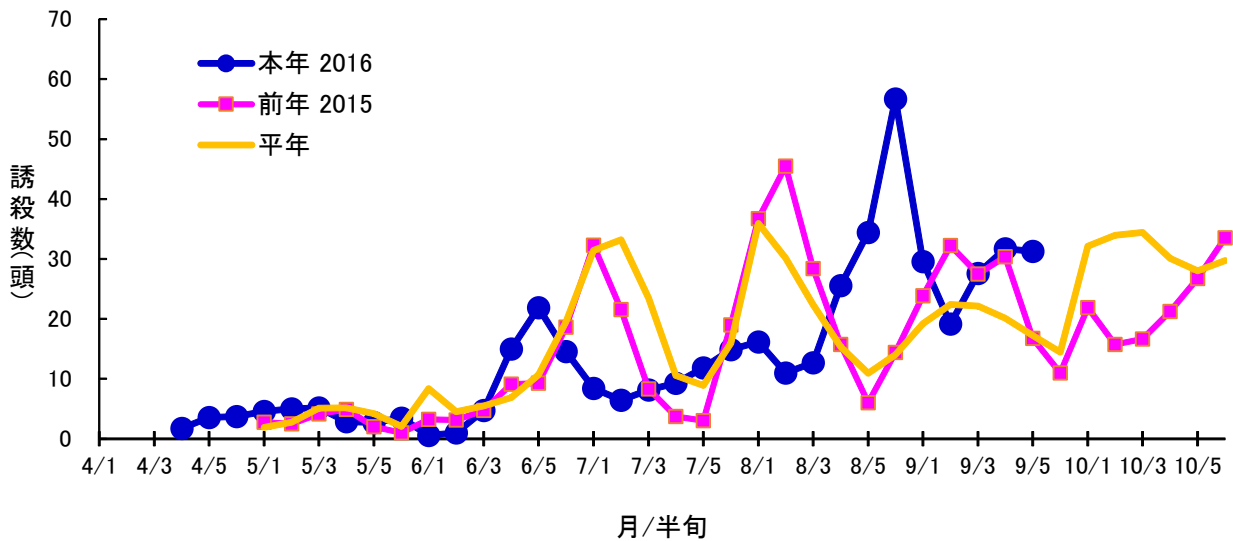


図3 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移

調査圃場：阿波市(柿原, 香美, 下喜来, 中原), 三好市(勢力), 東みよし町(昼間), 石井町

IV. その他

1. ハスモンヨトウをはじめとする食葉性害虫等の発生が多くなる時期です。野菜類の定植後には圃場を見回り, 発生が確認されたら速やかに防除してください。
2. 薬剤の使用に当たっては, 必ず農薬ラベル記載事項を遵守してください。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。